

校長室から 8 (season 2) 「共に生きる社会の実現に向けて」

～保土ヶ谷養護学校との交流事業「吹奏楽部演奏会」～

12月15日(木)に、隣接する保土ヶ谷養護学校と光陵高等学校の生徒間の交流として、保土ヶ谷養護学校の児童・生徒の皆さんを前にクリスマスコンサートを開きました

今年は感染防止のため、演奏者も観客も、それぞれ3グループに分け、小学部高学年児童の部、小学部低学年児童の部、中学部生徒の部の、3回の公演を行いました。



例年この時期に行われるもので、保土ヶ谷養護学校の児童・生徒の皆さんも心待ちにしていたようです。流れるリズムに合わせて、踊りだす児童や体を揺すりながら音楽を楽しんでいる様子が見られました。特に中等部生徒の部での盛り上がりが大きく、演奏後にアンコールの声がかかっていました。それらの姿を見て、本校の生徒にとっても、多くの気づきがあったと思います。最後に、保土ヶ谷養護学校

からのお礼として、児童生徒が作った手作りのプレゼントをいただきました。

以前から、保土ヶ谷養護学校との連携事業として、光陵高等学校の1年生全員が保土ヶ谷養護学校の高等部の生徒との「交流授業」(各作業班に分かれての体験授)を行っていました。また、「スポーツ交流」として、本校の3学年の体育の授業のなかで、ティーボールやサッカー等を行っていました。これらの交流が、コロナウィルス感染防止の観点から実施できていないことが残念でなりません。



これらの交流活動は、単に地域社会と関係を深めるだけでなく、生徒同士がふれあい、学び合う中で「共生」や「心のバリアフリー」について考えるきっかけになるとと思います。

障がいのある人や高齢の人も含めた全ての人にとって住みやすい社会、全ての人がお互いの価値を認め、支え合っていく「共生社会」の意味を学んでいってほしいと思います。

令和4年12月26日